



社団法人日本化学工業協会  
専務理事 西出徹雄

皆さんは JIPS をご存じでしょうか？

Japan Initiative for Product Stewardship の略で、日本版 GPS(Global Product Strategy；グローバル・プロダクト戦略)です。ローマ字やカタカタが多すぎますが、日本の化学物質管理の分野で現在進められている新しいプログラムのことです。

化学物質の安全に関わる問題としては、日本国内では現在のところ特定の問題が話題になったりしているわけではありませんが、水俣病の患者の認定については議論が続いていますし、PCB の問題も分解処理はまだ対応が残されています。10 年以上前にはいわゆる環境ホルモン問題が大きく注目を浴びましたが、その後の研究により当初心配されたほど直接的な影響は大きくないようで、時間をかけて基礎的な調査を続けていく方向に落ち着いてきました。しかし、化学物質に起因する健康や環境への影響の問題への対応は終わったわけではなく、リスクの考え方を取り入れて、より体系的な取り組みにより、安全性情報を公開・共有する形へ大きく転換しようとしています。

化学物質管理全体の流れを振り返ってみると、1992 年のアジェンダ 21 を出発点として、更に具体化のための議論が国連環境計画 (UNEP) で進められて 2002 年に「国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ (SAICM)」が必要であると決議され、続くヨハネスブルク・サミットで 2020 年までに化学物質によるヒトの健康や環境への悪影響を最小化するという目標が設定されました。その後 2006 年にドバイで

開催された第 1 回国際化学物質管理会議 (ICCM-1) で SAICM を構成するドバイ宣言以下が決議され、世界の化学業界としては自主的な活動として①レスポンシブル・ケア世界憲章の普及と②グローバル・プロダクト戦略 (GPS) の二つを推進することを国際的に表明しました。

このような流れの中で化学物質管理に関する規制の動きは、日本の化審法改正も欧州の REACH 規制も、この SAICM の実現を意識してリスクの考え方を取り入れ、既存化学物質をも対象に加えた大きな変化となり、アジア各国でも同様の規制整備が進もうとしています。世界各国の化学工業協会で作成する国際化学工業協会協議会 (ICCA) では、GPS の実施ということで、取り扱っている化学物質のリスク評価を自主的に進め、更に情報の共有と公開を IT ポータルで進めようとしています。冒頭に書いた JIPS は、この GPS を日本の中で展開しようとするもので、実施のためのガイダンス文書を現在整備中で、ICCA の動きと整合させてできるだけ早く実施に移そうとしています。

塗料に関連する環境安全問題への対応としては、従来から船底塗料や塗料中の鉛の問題、VOC の問題などへの対応が積極的に進められ、化学産業全体で進めているレスポンシブル・ケアに相当するコーティング・ケアの活動がありますが、今後も自主的な化学物質管理の活動が一層期待されています。